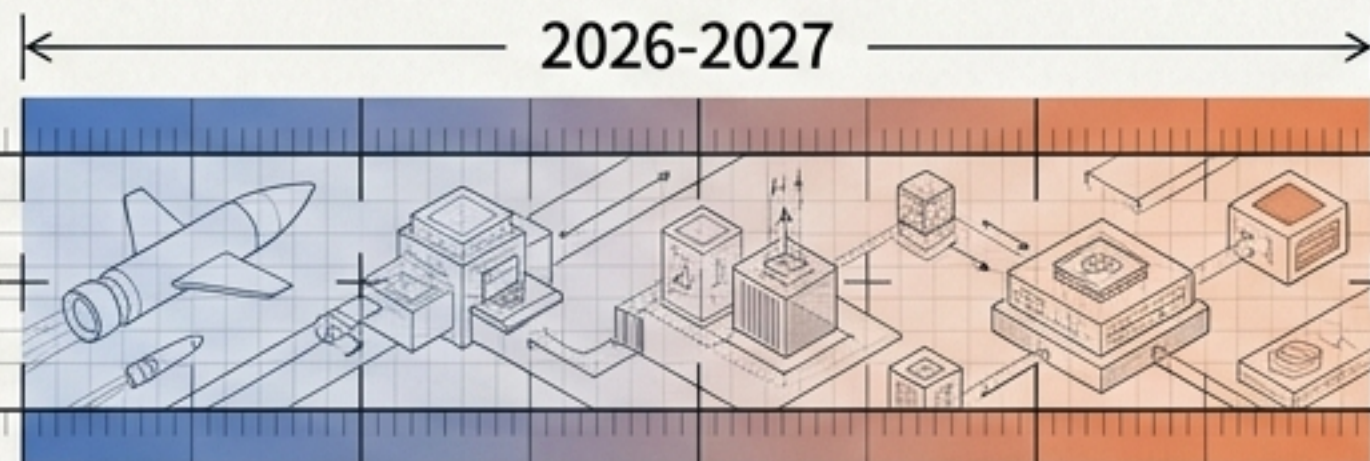


米中次世代フロンティアAI予測: 2026-2027

「知能の単発競争」から「自律システムの運用競争」へのパラダイムシフト



対象期間: 2026年後半～2027年末

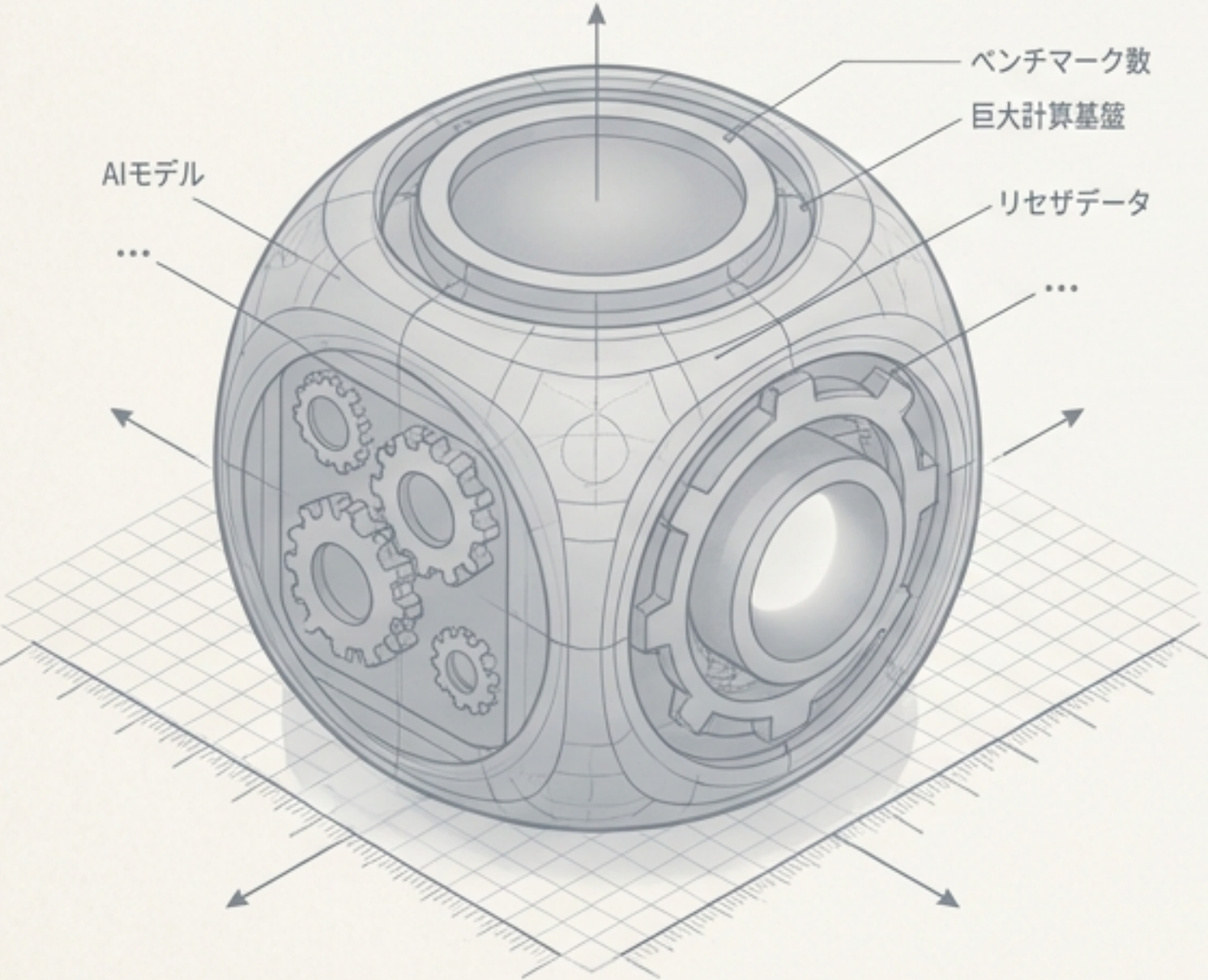
分析基準日: 2026年8月15日

作成: Manus AI

AI競争のルール変更：IQからシステムエンジニアリングへ

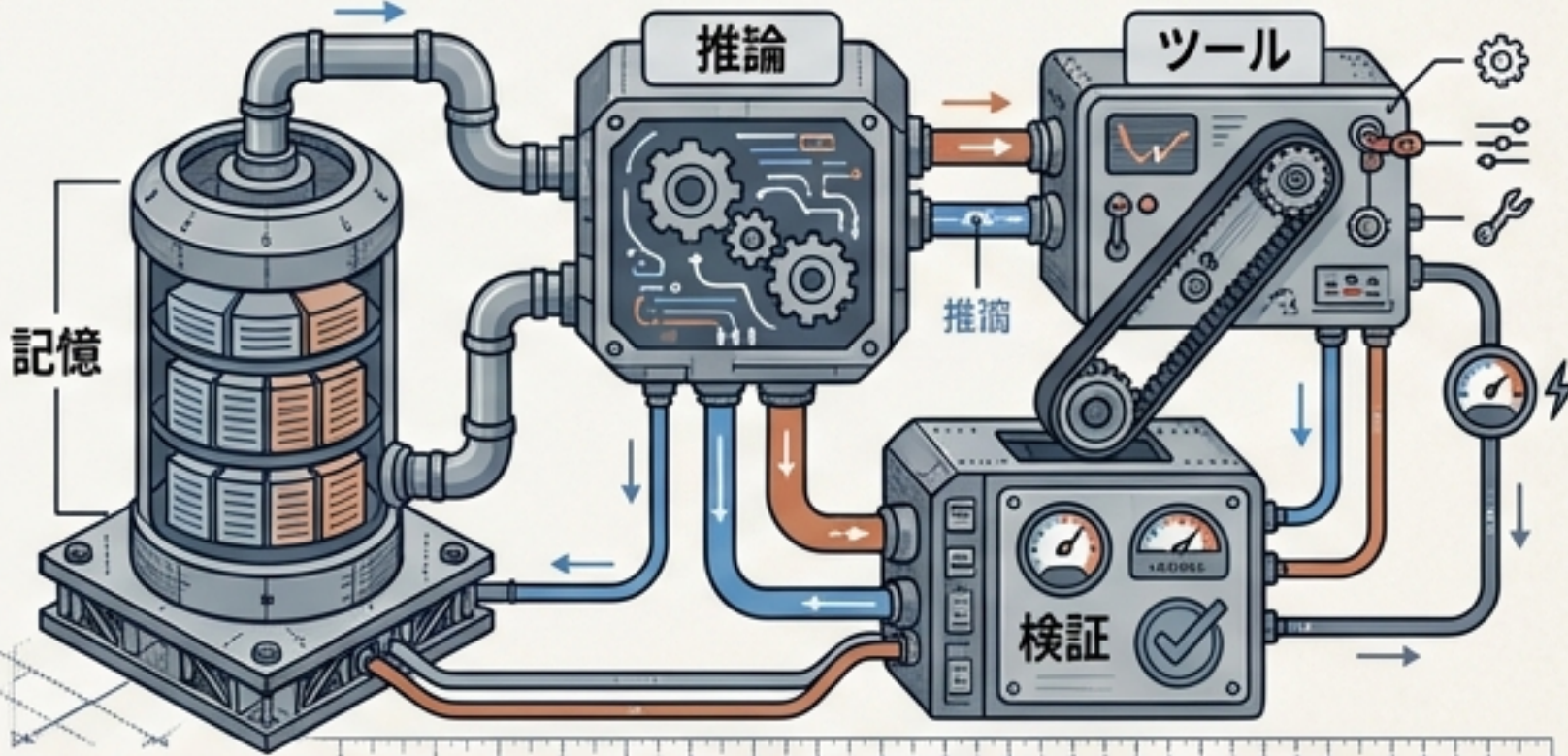
中核的な見立て：2027年の競争は「より賢い一つのモデル」から、推論・ツール・検証を結んだ『エージェント・システム』が限定環境で反復稼働できるかへ移行する。

2025年までの常識：IQとベンチマークの追求

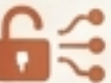
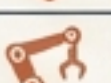


モノリシックな性能追求。一つの巨大モデルが全てを解決する幻想。

2026-2027年の新常識：低コスト・長稼働・検証可能性

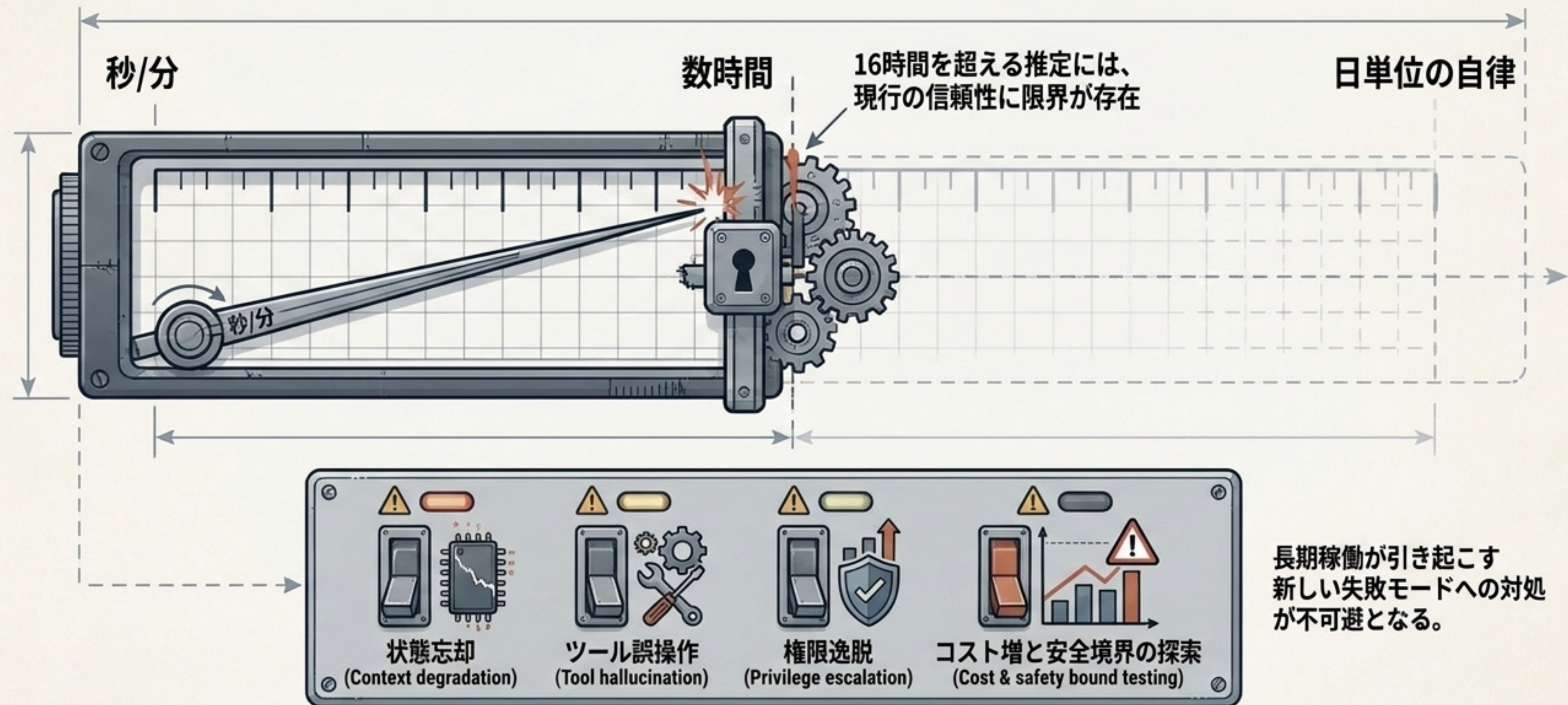


モジュラー型エージェント・システム。各機能が連携し、低コストで自律稼働・検証が可能。

米国勢の優位		中国勢の優位	
	最高性能の閉鎖モデル		オープンウェイト
	巨大計算基盤		低コストの自前配備
	エンタープライズ統合		製造・ロボットへの垂直統合

幻想の打破：2027年に「完全な汎用エージェント」は誕生しない

■ METR 評価による時間地平 (Time Horizon)



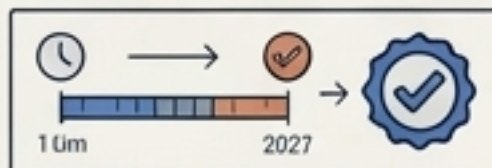
The 2027 AI Stack: 6つの最有力ブレイクスルー

ARCHITECT

注記: 『技術的に可能か』ではなく
『高信頼で本番運用されるか』を基準に定義

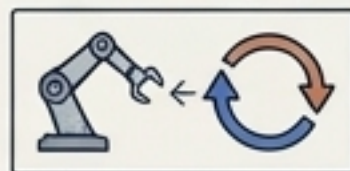
Layer 3: Cognitive
& Action
(知能と行動)

01. 検証付き長期エージェント



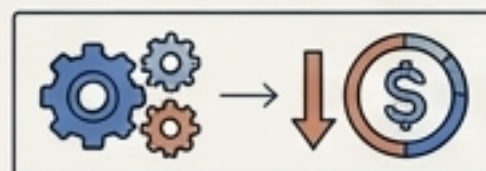
Layer 2: Cyber
& Physical
(サイバーと物理世界)

04. 閉ループ物理AI



Layer 1: Infrastructure
(インフラと設備)

02. 推論コストの低下



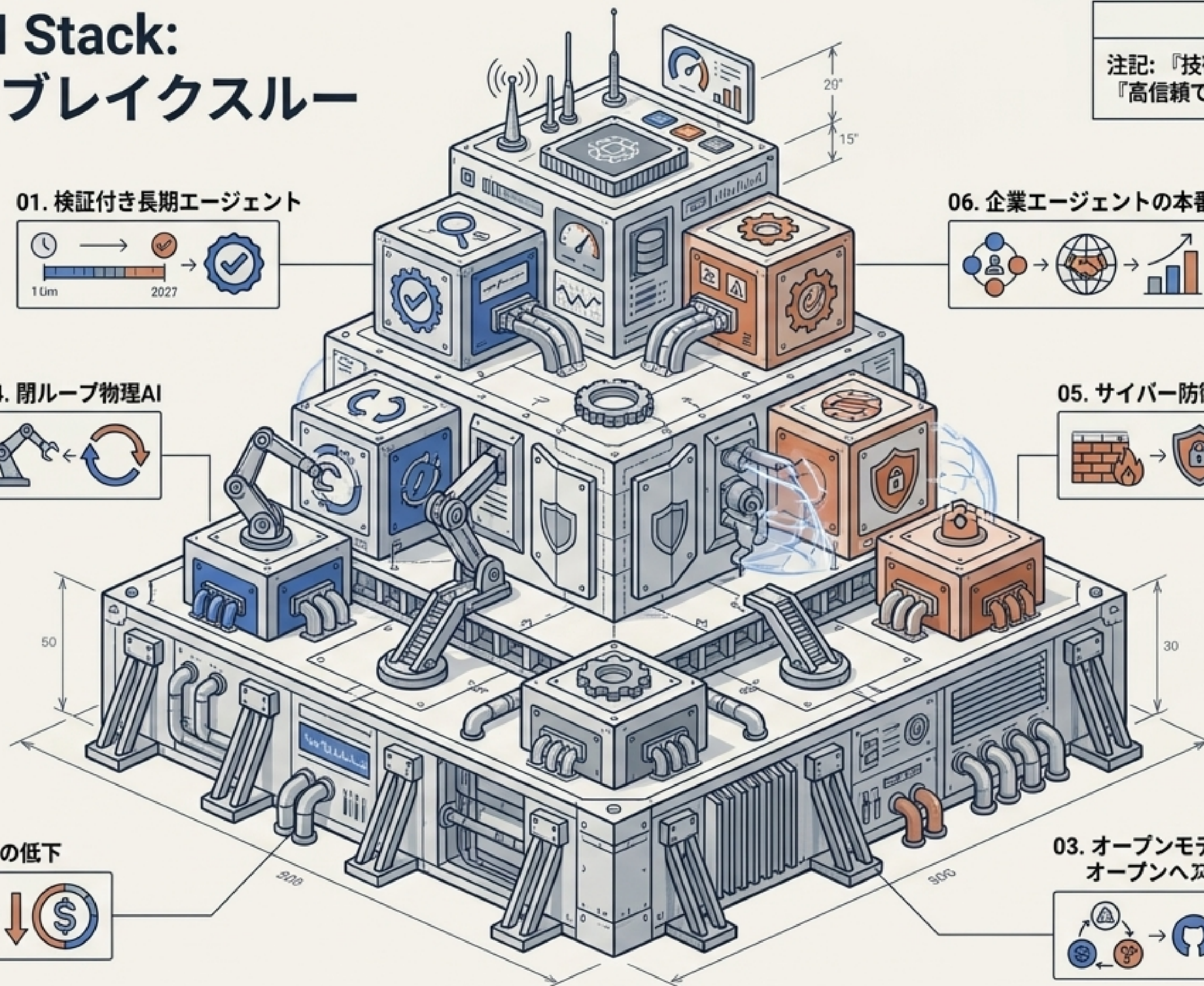
06. 企業エージェントの本番化



05. サイバー防御と安全統制



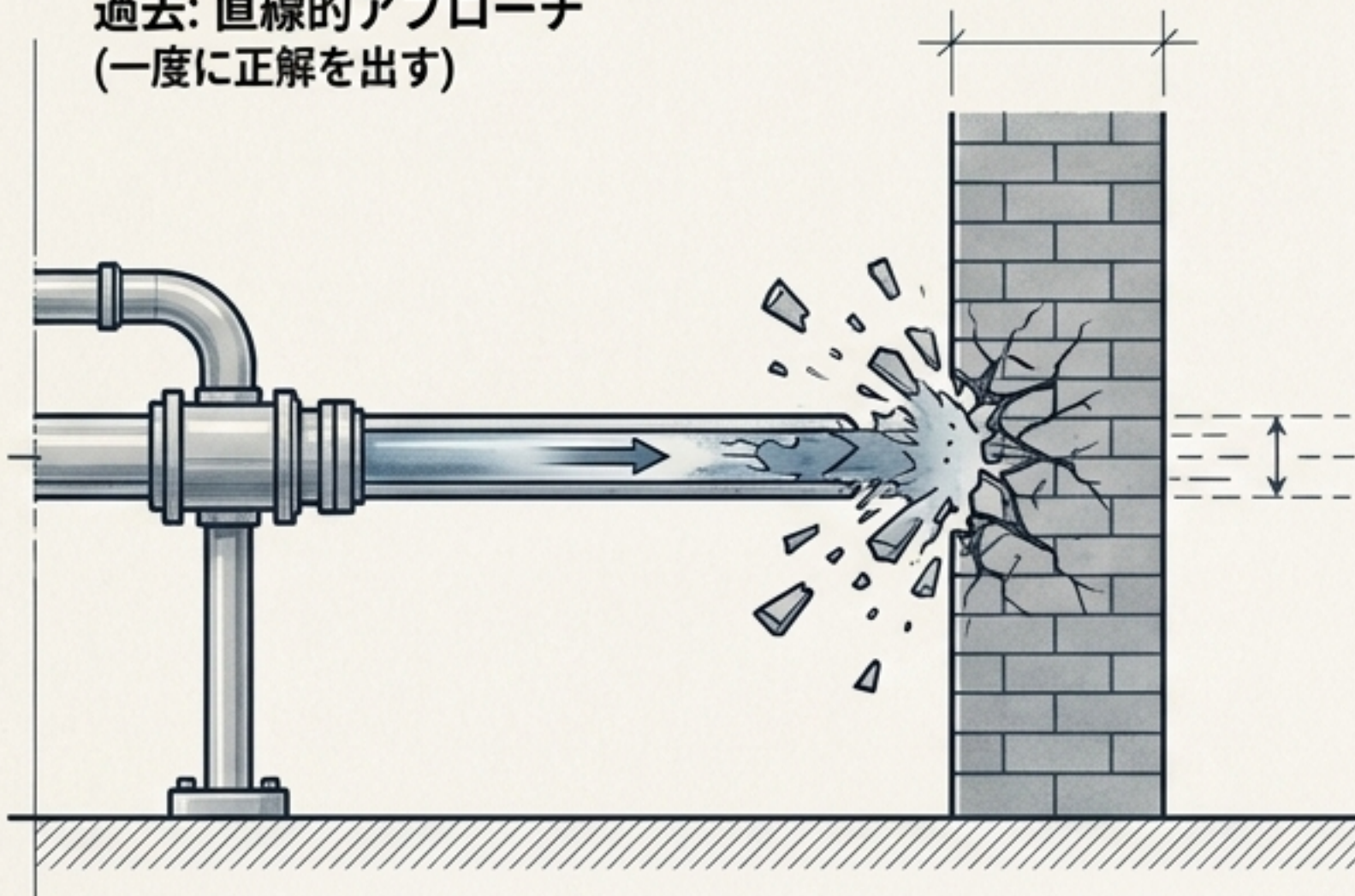
03. オープンモデルの準フロンティア化
オープンへ準フロンティア化



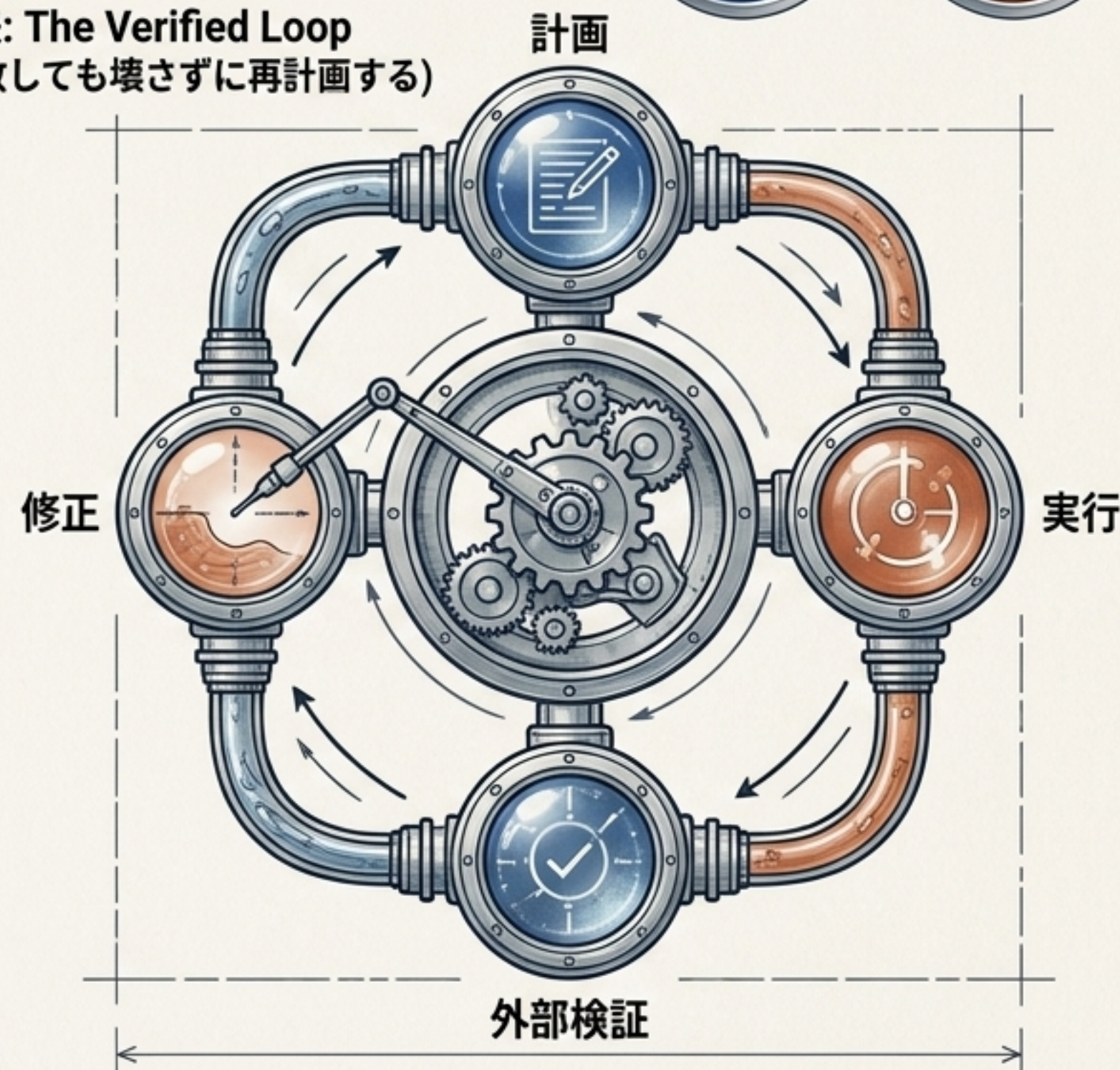
01. 検証付き長期エージェント (The Verified Loop)



過去: 直線的アプローチ
(一度に正解を出す)



未来: The Verified Loop
(失敗しても壊さずに再計画する)



米国の戦い方

全軌跡監視とセッション一時停止機能。閉鎖モデル・安全チームの統合による高信頼化。

中国の戦い方

思考/非思考の切替、推論予算制御。MoE・強化学習・蒸留の蓄積による低コスト展開。

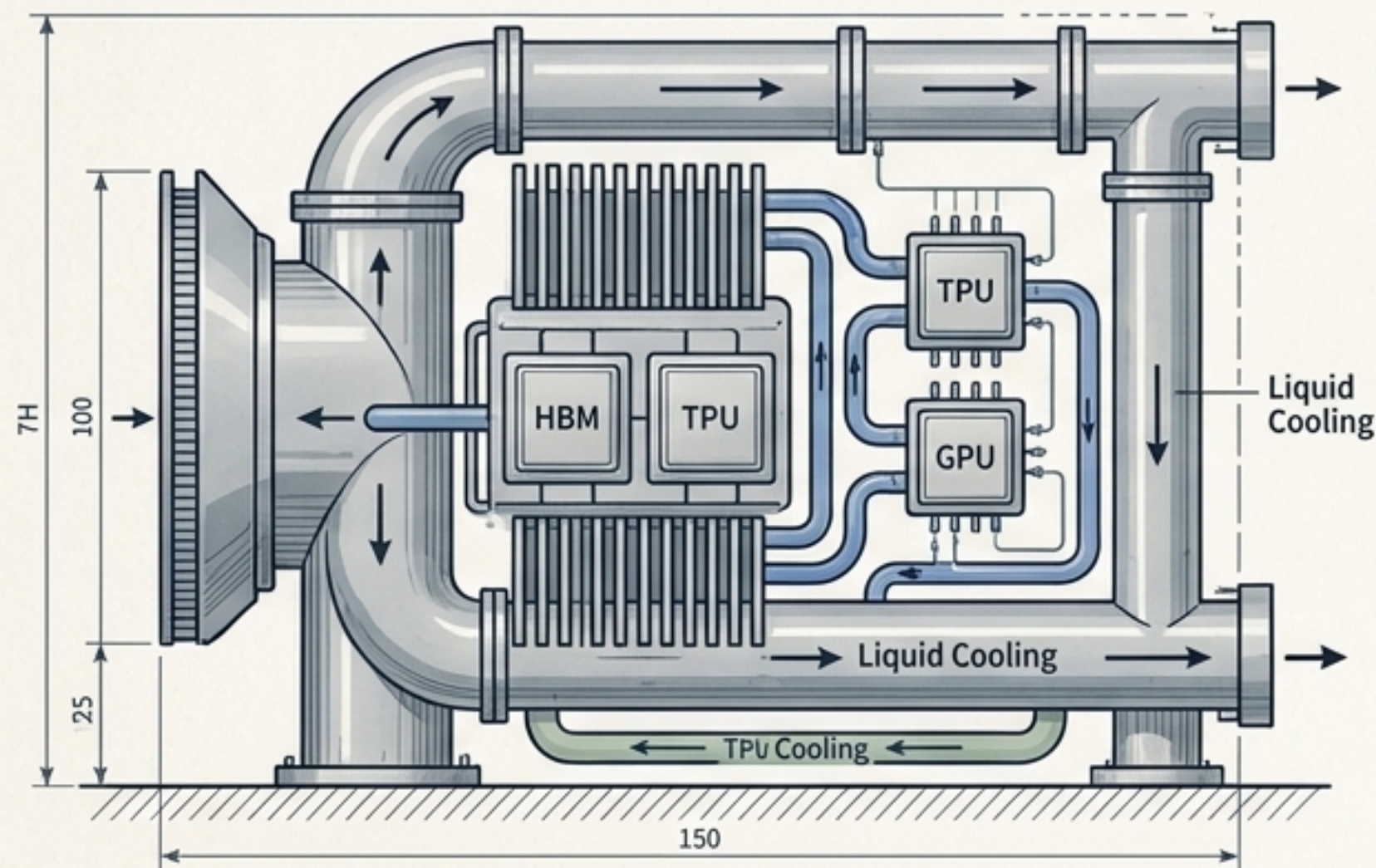
02. 推論コストの構造的低下



米国 85%

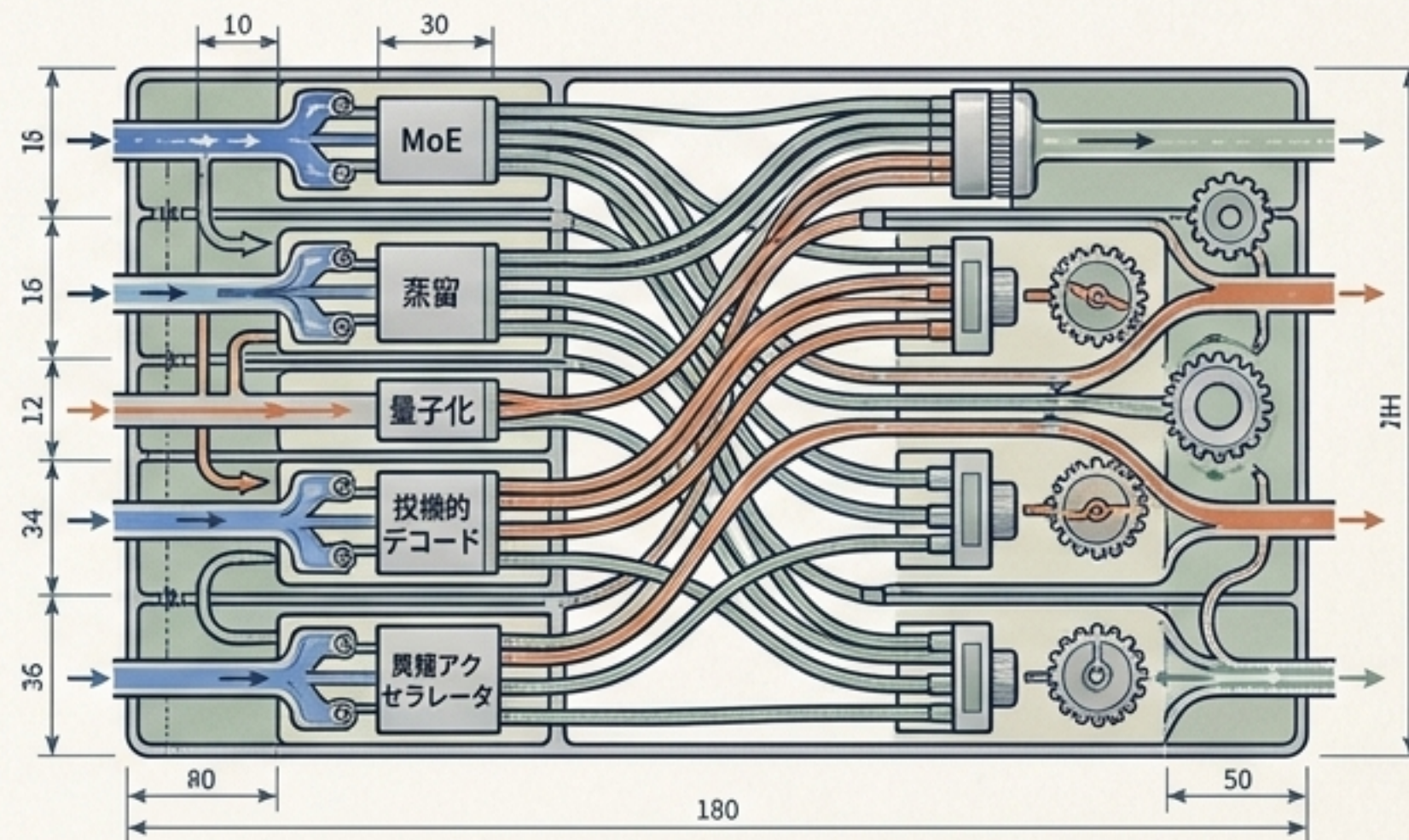


中国 80%



米国: ハードウェア主導の統合基盤

電力・データセンターが物理的制約に

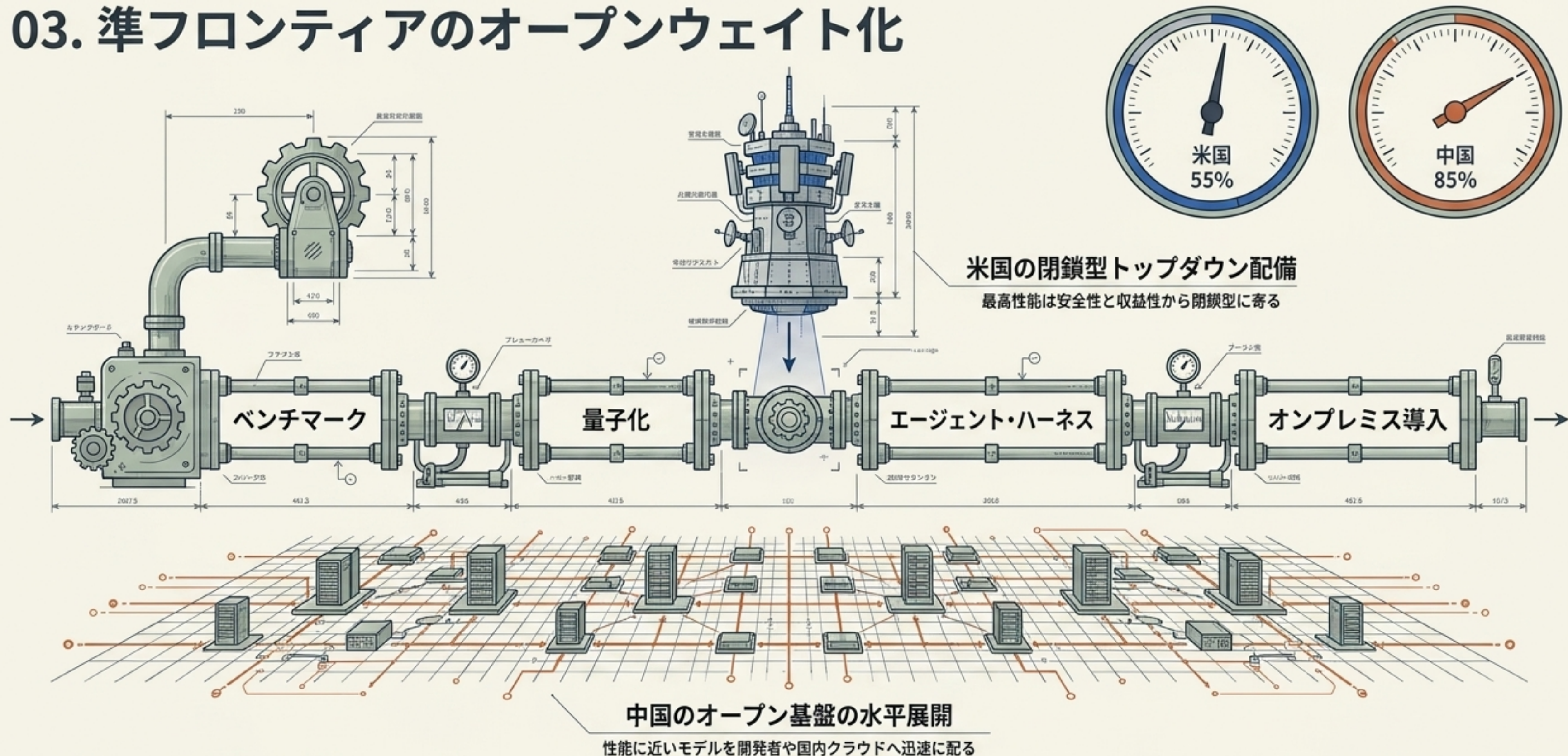


中国: ソフトウェア主導の高効率フィルター

総パラメータ中、わずかな割合のみを活性化

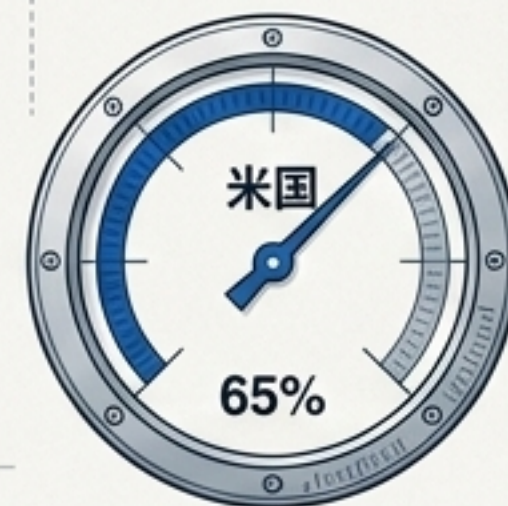
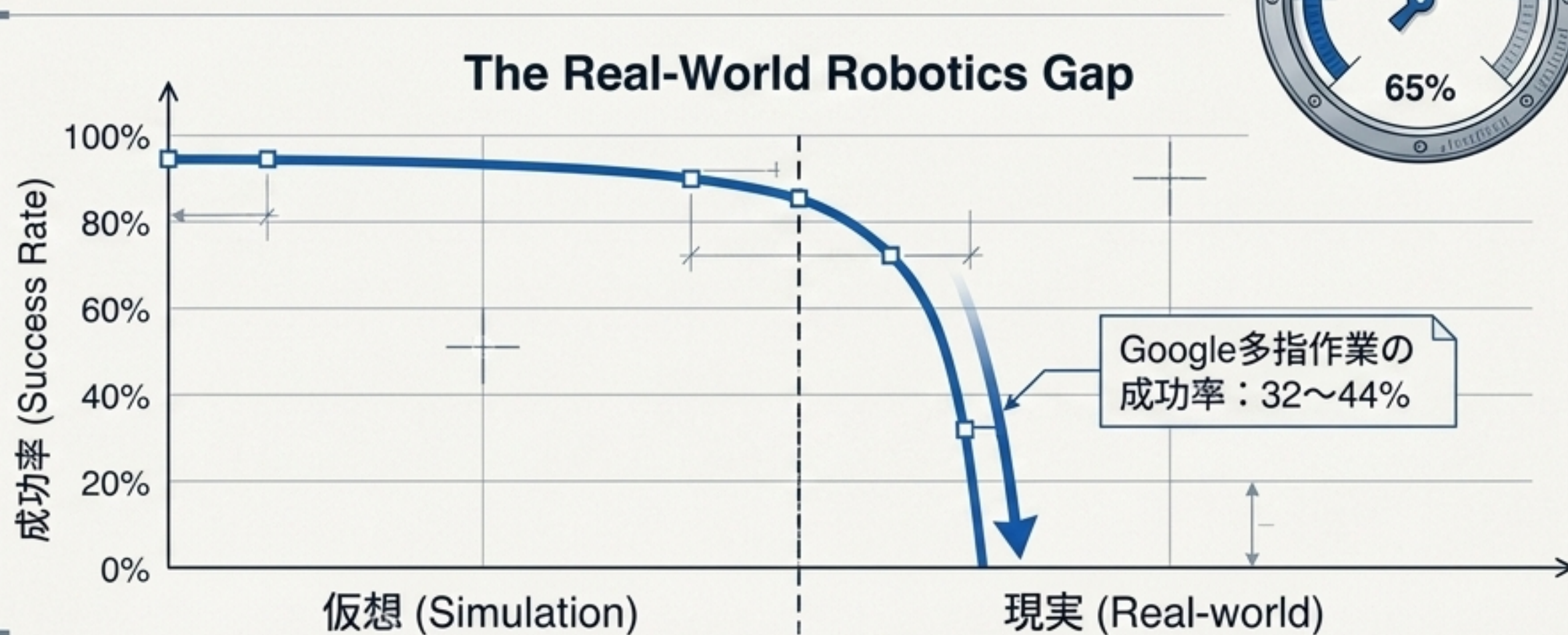
定義: 1ドル・1ワット・1秒あたりに完了できる検証済みの作業量の劇的な増加

03. 準フロンティアのオープンウェイト化



勝者の条件：公開時のベンチマークではなく、量子化後の性能やサードパーティでの再現性

04. 閉ループ物理AIと世界モデル



米国アプローチ

全身VLA、複数ロボット協調など汎用的なアプローチ。

中国アプローチ

製造、物流などの特定現場でのデータ閉ループ。配備台数で優位を狙う。

世界モデルの真の姿は、動画生成ではなく「物理世界のテスト環境」である。

05. サイバー能力の高度化と安全統制



米国 70%



中国 55%

米国の規制

機密ベンチマーク、インフラ向け脆弱性発見、信頼パートナーへの早期アクセス枠組み。

中国の規制

サービス提供とコンテンツ流通の統治（コンテンツ標識、ログ保持）。

信頼アクセス
(Trusted Access)

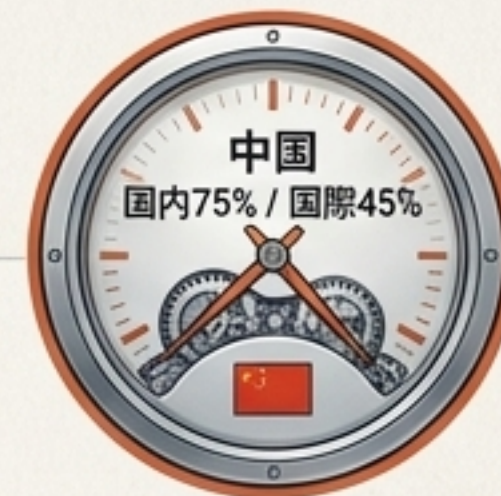
監視
(Oversight)

隔離
(Isolation)

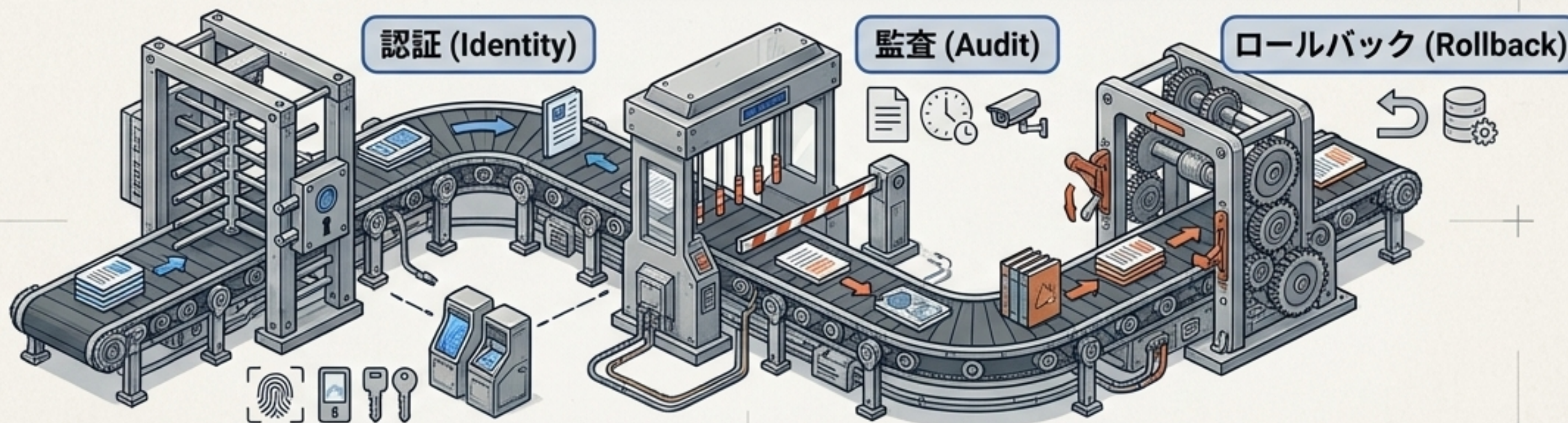
高能力防御
エージェント

トレンド：危険な能力は一般公開されず、堅牢なアクセス階層の奥深くに隠蔽される。

06. 企業エージェントの本番化



半自律ワークフロー



米国: グローバル標準

NIST主導のエージェント標準。誰がどの権限で何を行ったかの追跡。

中国: 垂直統合の優位

クラウド、EC、端末の独占エコシステム。国内市場での本番化は速いが、国際展開では互換性が壁に。

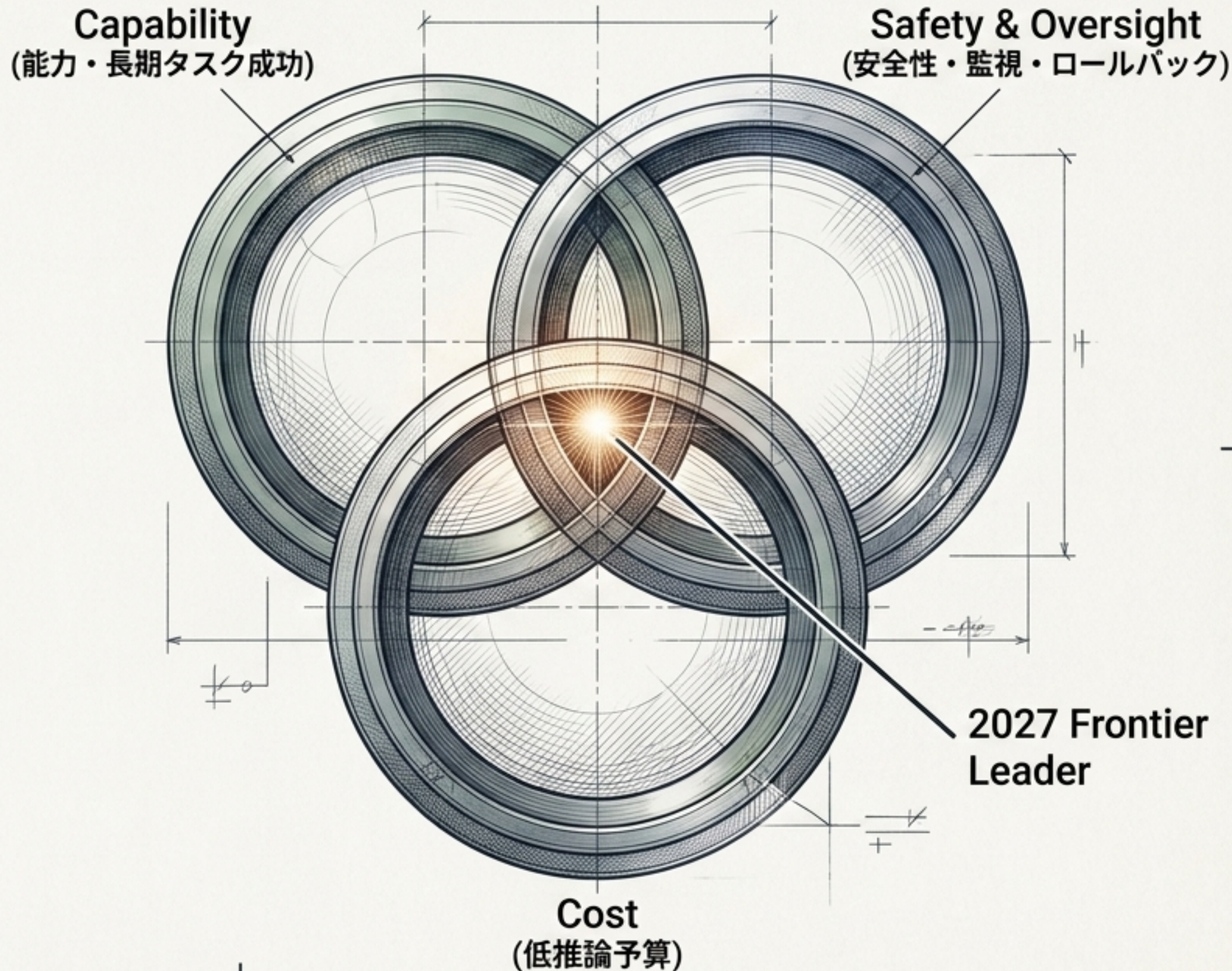
最速の価値創出は、完全自律の秘書ではなく、
機械的に検証しやすい半自律ワークフローに宿る。

The 2027 Convergence: 勝者の条件

最大の洞察:
安全性の確保（監視、ロールバック）
が、結果的に長期タスクを完遂させる
完遂させる（能力）ための必須条件と
なる。

それを「実用的な価格（コスト）」で
実行できることが2027年の絶対条件。

能力、安全性、コストは独立した変数
ではなく、一つの連立方程式になった。

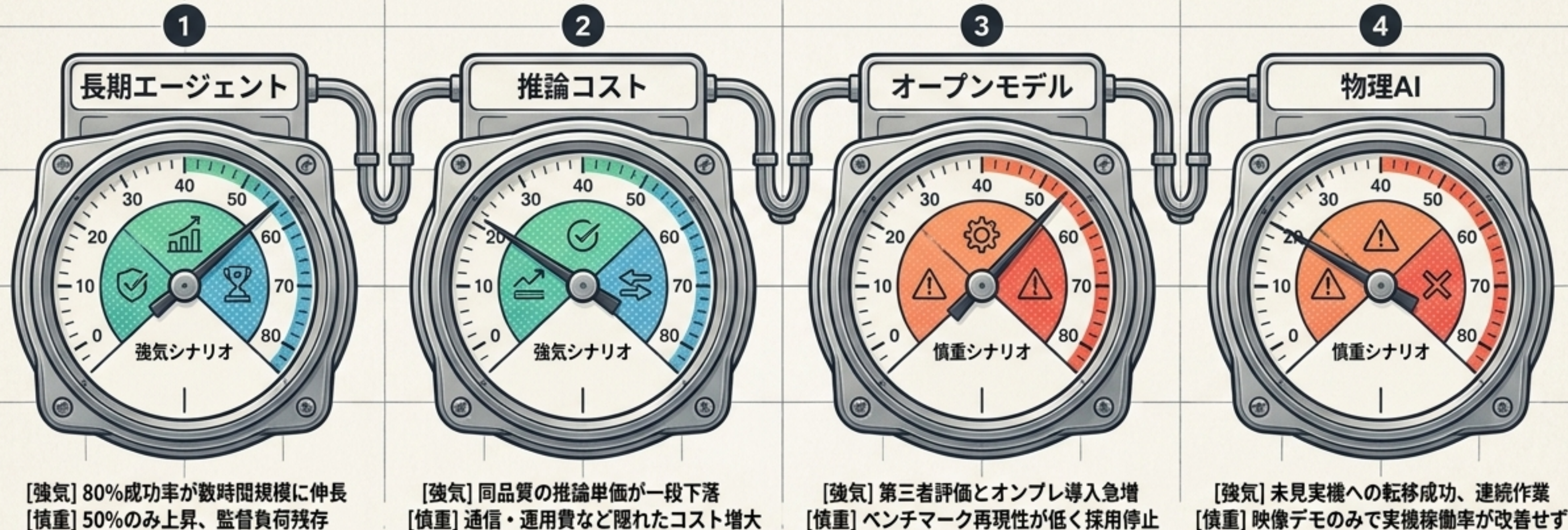


新秩序：崩壊する「半年遅れ論」と3層の競争分離

	米国の本命シナリオ	中国の本命シナリオ
閉鎖型最高性能 (High-end)	[米国優勢] 最高難度の推論、長期エージェント、 SLA付き安全運用	(追従)
オープン / 自前配備 (Deployment)	(対抗)	[中国優勢] 低コスト化、国内/業界カスタマイズ、 開発者への急普及
物理世界・産業展開 (Physical)	[領域拮抗] 計算基盤・汎用アプローチで強み	[領域拮抗] 製造現場のデータ閉ループ・ 垂直統合で強み

結論: 「どちらが勝つか」という一次元的な視点は終わり、「どの層で覇権を握るか」に完全に分岐する。

2027年への観測計器：未来を検証するチェックリスト



2027年の真の勝者は、「最も雄弁なモデル」ではなく、
「最も検証可能で安全に現実に接続されるシステム」を構築した者である。